

朝ごはんプロジェクト【滋賀県】

■団体の名称

中央中学区 朝ごはんプロジェクト

■連携している団体

中央学区学区社協・民生児童委員等・彦根市子育て支援課・子ども若者課・教育委員会・ボランティア団体・企業・自治会

■背景・ねらい

「朝食欠食1割」や生活習慣も乱れメディア管理の課題も顕在化。生徒自身の自己管理能力が高まるよう家庭や地域がつながりを強め、全ての子の健全育成に資する機運を高める。朝食活動、登校促進、長期休暇の学びの保障、親子の参加は、孤立を防ぎ、地域の拠点が架け橋に。困難を抱える子が「社会的包摂」され、全ての子の「ウェルビーイングの実現」を目指す。

■活動内容



①**すべての子のウェルビーイングの実現**：睡眠・メディア管理の講演・パネルディスカッション等に生徒・教員・家庭・地域が参画し、「朝食バー」（寄付）の全校生徒配布や生徒会ののぼりによる地域啓発。学校で機会の平等を実現することにより困窮家庭のスティグマを軽減。「集う・お届け朝ごはん」（食料寄付）が提供しやすくなり格差が是正され困難を抱える子が「社会的に包摂」される。

②**「生徒会」のぼり作成で地域啓発**：小中連携。早寝早起き朝ごはんの普及啓発とメディア（ゲームスマホ等）の管理を地域の企業、自治会等地域社会全体で、子どもと家庭と学校の応援の見える化と意識化、共通理解。

③**金城学区ステーション**：地域の自治会で「創る朝ごはん」。数軒の親子の参加で「集う朝ごはん」。来所できない時は「届ける朝ごはん」。心が充電出来たら登校支援。地域の方からの愛着保障と朝ごはんづくりは家庭からの一歩のきっかけ作り。



④**平田学区ステーション**：地域の公民館における夏休み勉強会。早寝早起き朝ごはんの呼びかけと「勉強応援・翌日朝食応援」（ケロッグ社と提携）提供。地域の方とのつながり強化。



⑤**「お届けバナナ」と社会的不利な方の活躍**：障害のある方のリハビリでバナナパック作成・ひきこもりの若者がメッセージカードを作成。福祉法人の社会貢献でバナナと食糧寄付等。共助と相互のエンパワメント。



⑥**「出前朝ごはんプロジェクトin保育園」**：③の参加親子、社会自立を目指す若者ボランティア、地域人材と園児と一緒に、ケロッグシリアル活用したミニパフェ作り・園児全員に文科省の早寝早起き朝ごはんテキスト活用・⑤施設入居者との協働の栄養の歌（動画配信ICT活用）で、心を繋ぐ。

⑦**官・公・民・志・世代・分野・場・モノみんなで架け橋**：共助の輪

■成果

【昨年度のアンケート】メディアとのつながり：平日の視聴時間約5割の生徒が3時間以上使用。（休日利用は増）7割以上の生徒がメディアを視聴しすぎているという自覚あり。

【今年度アンケート】自己管理能力の必要性の自覚が7割を超え、継続的・主体的な取り組みが求められ、生徒会中心に啓発のぼりの標語募集⇒3分野3パターン（睡眠・朝食・メディア）計9種が通学路に設置された。「大切にされている」「人の役に立っている」等自尊感情の高まりは、一学期より向上傾向。（約8割に）

◆すべての子に機会を平等に保障する網掛けは、誰一人ひとりにしないという「子どもの最善の利益」のために、学校がプラットフォームに。

◆家庭を支える地域・関係機関・企業・諸団体との協働も進み、二小学校区の地域間交流も可能になった。

◆「子に良し・親に良し・地域に良し・学校に良し」生徒会中心に自己管理への意識化が芽生えた。「朝ごはんプロジェクト」の取り組みでは、心身が充足でき、登校促進や多世代交流の機会に届ける朝ごはんとしての食糧寄付も頻度が高まる。夏休みの集う学びは、生活の見直し、地域との交流強化促進に。子どもの笑顔が、全ての大人に元気と笑顔を提供。大人（親・教員・支援者・地域）の笑顔が子のウェルビーイングの実現を促進している。本事業は、福祉・教育の縦割りを超えて、他分野、多文化、多世代交流、制度上既存の連携で出会わない人同士、モノの提供、リユース、シェア等、有機的な協働が可能になっている。学校が、地域につながりやすくなるための自治会・企業・諸団体との架け橋機能を果たしている。「つながりの貧困」を快方でき、新時代を拓く、豊かで新たなソーシャルキャピタルが醸成されている。